

議事要旨(3) 連結・特別目的会社専門委員会における検討状況

冒頭、新井副委員長（専門委員長）より、連結・特別目的会社専門委員会では、これまで特別目的会社の連結の範囲を中心に議論を行ってきており、本日は、検討を行っている中間的な取りまとめの文案について、ご審議頂きたい旨の説明があった。これに続き、原田専門研究員より、現段階の「企業会計基準委員会における特別目的会社の連結範囲等に関する会計基準の検討状況(案)」に基づいて説明が行われた。

委員からの主な発言内容等は以下のとおりである。

- ある委員より、文書の日付の必要性、及び表題の「検討状況」の記載について、デュー・プロセス上の文書で使われる「検討状況の整理」との違いをどう考えているかとの質問があった。これに対して事務局より、日付はいつ時点までの検討かを示すために必要と考えており、「検討状況」は、デュー・プロセス上の文書ではなく、これまでの審議の中間的な取りまとめという位置づけであることを示すために「整理」という文言を付さずにこのような記載にしていたが、表題については引き続き検討したいとの回答があった。
- ある委員より、「会社に準ずる事業体について」と「資産の流動化に関する会計基準等の見直し」のそれぞれに記載されている「検討状況」では、「IFRS 第 10 号公表以降、本論点についての検討は進められていない。」としているため、前半の IFRS 第 10 号について検討している部分と矛盾しているように見えるとの意見があった。これに対して事務局より、いつの時点から検討していないかも明示したい意図で記述しているが、表現については工夫したいとの回答があった。
- ある委員より、冒頭に枠囲みをして、中間取りまとめであることとデュー・プロセス上の文書ではないことを明確に記載した方がよいとの意見があった。これに対して事務局より、ご指摘いただいたような点を踏まえて明記する方向で対応したいとの回答があった。
- ある委員より、デュー・プロセス上の文書を公表するときのような「公表にあたって」は作成しないのかとの質問があった。これに対して事務局より、そのような文書を作成することは考えていないが、何らかの記載を行ったうえでホームページ上には掲載することを考えているとの回答があった。
- ある委員より、検討途中で取りまとめたものであるため、検討が進んでいる論点とそうでない論点が混ざるのは仕方ないが、検討が進んでいない論点については、単に検討が

進んでいないということが言いたいのか、それとも今後検討を進めるために、資料に含めておくことで役立つと考えられるために入れているのかを明確にした方がよいのではないかという意見があった。これに対して事務局より、ご指摘を踏まえて、対応を検討したいとの回答があった。

最後に、新井副委員長より、本日頂戴した意見及び専門委員からのコメントを踏まえて文案の修正を行い、次回の企業会計基準委員会で提示し、承認いただきたいと考えている旨の説明があった。

以 上